

わかりやすい洪水・濁水の表現検討会について

1. 検討会の目的

これまで洪水や濁水の発生により、国民生活や社会経済活動に様々な被害や影響が発生しているが、洪水や濁水に係る国民への情報提供は、河川の水位や流量、ダム等貯水池の残容量等によるものが多く、必ずしも国民の生活実感を伴う情報の提供となっていないことから、これらの被害や影響の深刻さに対する国民の正確な理解を深め、国民と情報を共有する必要がある。

そこで、洪水や濁水の被害の程度に視点をおいて、洪水や濁水の強さや規模を分類するなどして、国民の生活実感を伴うわかりやすい表現を用いて、洪水や濁水に関する情報を提供していくことを考えている。

このため、有識者による「わかりやすい洪水・濁水の表現検討会」を設置し、検討を進めるものである。

2. 検討会委員

わかりやすい洪水・濁水の表現検討会 委員一覧

(敬称略、五十音順)

いけぶちしゅういち
池淵周一

京都大学防災研究所教授

いとうかずあき
伊藤和明

防災情報機構会長

しらいしすすみ
白石真澄

東洋大学経済学部助教授

ひらのけいこ
平野啓子

武蔵野大学非常勤講師

ひろい おさむ
廣井 脩

東京大学社会情報研究所教授

ふくおかしょうじ
福岡捷二

広島大学大学院工学研究科教授

やまざき のぼる
山崎 登

日本放送協会解説委員

座長

3 . 検討会の進め方

第 1 回検討会（ 8 月 8 日 ）

検討の進め方

現状と課題

洪水や濁水に関する情報提供の現状
既往洪水における国民生活への影響
既往濁水における国民生活への影響
他の事例における情報提供の現状

第 2 回目以降の検討会

わかりやすい表現についての議論

住民が的確に行動するために必要な情報
それらを住民に伝えるための表現
・階級値の必要性等

とりまとめ

国民の生活実感が伴う洪水・濁水表現の提言(案)